

株式会社 なかの

～地球の環境保全に貢献する廃棄物処理のエキスパート～



代表者 中野 篤志
住所 〒123-0862 足立区皿沼 2-13-6
TEL 03-3855-2875
資本金 1,000 万円
事業 産業廃棄物・一般廃棄物収集・運搬業・処分業
沿革 創業：1969 年
創立：1992 年（創立からの業歴 31 年）
年商 5 億 7,500 万円
従業員 50 名（内非正規従業員 0 名）
URL <https://www.eco-nakano.co.jp>

企業の概要

廃棄物の収集・運搬・処分を主業とする同社は、環境問題が重要かつ切実なテーマとして語られる現在、自然環境と人間生活の調和を目指し、環境に配慮したより良い企業活動を行う事を基本理念とし、リサイクルを中心とした収集・運搬・再生処分業務を様々な分野で展開。地球の環境保護に貢献する“ゴミ処理のエキスパート”として社会に本当の豊かさを提供している。

(1) 『ペットボトル』リサイクル事業

同社は、飲料容器を効率よく回収・選別し、その後の処理能力と選別品質が評価され自動販売機ベンダー最大手の大手自動販売機設置業者から指定回収業者として認定されている。かつては、排出される飲料容器としては「スチール缶」・「アルミ缶」が圧倒的に多かったが、時代の流れとともに「ペットボトル」が総処理量の約 47% を占めるに至っている。主な販売先は、同社から購入した資源を粉砕してフレークやペレット等の再生プラスチック素材にする中間処理業者や資源の中間処理（粉砕→洗浄→フレーク / ペレット化・容融）まで一貫して自社工場で行い、プラスチックトレイやペットボトル等最終製品を形成するメーカー（リサイクラー）が主である。又、メーカーからの「ボトル to ボトル」要請など水平リサイクルニーズの高まりもあり、利益率は 17.2 ポイント向上している。



入谷リサイクルセンター

(2) 助成金『第 2 回 躍進的な事業推進のための設備投資支援事業』を活用した設備導入

足立区入谷のリサイクルセンターに、新たな「破袋機」「除袋機」「磁力選別機」「拡散フィーダー」「光学選別機」「アルミ選別機」「スチール缶プレス機」「アルミ缶プレス機」を導入、既存の設備を活用しながら一連のラインとして「ベルトコンベアで繋ぐ」事で、東京都内に於いて 2 社しか導入実績がなく業界内での注目度も高い飲料容器の大処理量かつ高精度の選別・圧縮ラインを構築した。

(3) ESG 及び SDGs に対する取り組み

「プラスチック資源循環高度化設備導入事業」として、同取り組みを HP 等でアピールしていくと共に、リサイクルセンター内にカメラと見学スペースを設置し、地元小学校の社会科見学をオンラインでも行えるよう取り組んでいる。

1. DX 化（電子化）への取組。紙マニフェストから電子マニフェストへの移行。
2. 価格競争を行わない、サービスの質の向上を目指す。
3. 本社を建替え、より一層環境に適した地域住民との調和を図れる事業所を目指す。
4. 地域社会や若年層に向けたリサイクルの啓発活動を行っていく。